＜先週の説教から＞

『召天者礼拝ーキリストと共に！』

武田　真治　牧師

イザヤ書　２５：６～１０

テモテへの手紙　Ⅱ、２：８～１３

本日の礼拝は召天者記念礼拝として献げています。このことを覚えつつ、テモテへの手紙Ⅱ、2章8～１３節のみ言葉に聞きましょう。最初の8節に「イエス・キリストのことを思い起こしなさい。わたしの宣べ伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫で、死者の中から復活されたのです。」とあります。ここで「思い起こす」という言葉はギリシア語の（ムネモネオー）という言葉で、もともと（ムネーマ＝墓）という言葉から成り立っています。それは、当時は土葬でしたので墓碑に故人の名前や生没年などを刻みます。そしてその墓の前で故人を偲びながら「思い起こす」という意味でしょう。私たち日本のお墓もそのような場所となって来ました。しかし、ここでこの手紙の著者であるパウロは「思い起こす」べきなのは、イエス様が「ダビデの子孫で、死者の中から復活された」ということだと言っているのです。勿論「ダビデの子孫で」と言われていますから、地上を歩まれたイエス様の御姿を覚えることも含まれていますが、その上で「死者の中から復活された」方であることを思い起こせと。それは、もはや墓に葬られている故人としてのイエス様ではなくて、復活されて、昇天され、天において“今も生きて働いておられる方”としてイエス様を改めて「思い起こせ」と。

以上のことは、この召天者記念礼拝に集められた私たちにも語られているみ言葉ではないかと思います。即ち、私たちはイエス様のことを単なる故人＝人としてだけでなく、今も天から私たちを導き、生きて働いてくださっている方＝神の子として思い起こします。同時に、私たちを天へと迎えてくださるお方としても思い起こすのです。そうして、今日覚えている「召天者」は、そのように主によって“天に召された方々”であることを「思い起こす」のです。

私たちは、亡くなられた方を、単に墓に葬られた故人として墓の前で悲しみに浸るだけでなく、今は「天に召されて」イエス様の側におられる先輩として「思い起こす」ことが大事なのではないでしょうか。天にて真の平安と慰めを与えておられる方として、それ故「追悼式」ではなく「召天者記念礼拝」として、神様に感謝しながら献げる時なのです。

今日の箇所は更に「わたしたちは、キリストと共に死んだなら、キリストと共に生きるようになる。わたしたちが誠実でなくても、キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を否むことができないからである。」とあります。私たちもいつかは天へと向かいます。それまではたとえ私たちの歩みが（神様に対して）必ずしも“誠実でなくても”イエス様は『私たちを愛し、最後まで見捨てない』と約束してくださったと。その誓いを違えない（＝真実であられる）方であるからこそ、私たちがどんなに情けなくても必ずみ国へと導いてくださると！そこに私たちの希望があるのです！

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．11月 16日（水）20：00
Ⅱ．11月 17日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　収穫感謝・謝恩日を覚えて
担 当 者：　（水）飯田　（木）小林
祈りに覚える人：　相浦さん　　青島さん

【教勢報告】

主日礼拝　　男　25　　女　65　　計　90
祈祷会　Ⅰ．男6　女4　計10　　Ⅱ．男4　女10　計14
日曜学校　　幼稚科　7　　小中科　12　　計19
その他　　11月8日（火）ハンナの会 男2 女3　計5

【次週礼拝】　１１月　２０日（日）

聖　書：　ハバクク書　２：１～４
ヘブライ人への手紙　１０：３２～３９
説　教：「ヘブライ㉜ ― 自分の確信を捨ててはいけない」武田 真治 牧師
讃美歌：　１２８(1)、３２(1)、３８７(1と2)、５５２（1と2と3)、２８(1)

【次週当番表】

司式:保坂長老 奏楽:須田 礼拝:金刺長老
献金：丸茂　水澤　受付：飯島　吉岡
会堂準備 小杉 冨澤 長田 橋本 北條
看板：曾我 週報：吉岡　お花：羽倉

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・オリブの葉編集委員会　日曜学校教師会
幼稚園理事会

６３－４６

週　報

2022年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　１１月　１３日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/